



2019.1.18

RKCのQアスク例外

Q]

- ♠ K106
- ♥ QJ953
- ♦ Q5
- ♣ 963

と持っていて、パートナーが2Cとオープンしました。2Dとウェイトイングレスポンスすると2NTとリビッドが返ってきました。これは23-24HCP バランスハンドを示す約束になっています。5枚ハートを持っているので、3Dトランスファーをしました。すると3Sと返ってきます。これは良い4枚ハートとSAがあるに違いありません。それでもこちらにキュービッドで続けられるものがないからただ4Hと言います。するとオープナーは4NTと続けます。0キーカードですから、もちろん5D(0-3キーカード)と答えます。ここでパートナーが5Hと来たら、0キーカードですからパスでしょうが、5Sと来たらどうすればよいのでしょうか？

A] これはパートナーが5キーカードはそろったときの、グラントスラムのためにHQがあるか知りたいというクイーンアスクだと思います。なぜなら6Hには必ずなるのですから。非常にまれな例ですが、教科書(“Roman Keycard Blackwood” by Edwin B. Kantar)にはそう書かれています

Q] 5Sに♥Qと♠Kがあるときどう答えればよいのでしょうか？

A] どう答えるかの前にまずパートナーのハンドをこちらで判る限りのことで構築して見るのが良いと思います。判っていることは①23-24HCP バランスハンドということ②推測ですが5キーカードを持っていること③ハートは4枚あることの3点です。♠A、♥AK、♦A、♣Aの5枚で合計19HCPですから、あと4-5HCPの絵札があるはず。自分が持つ絵札以外を考えて、♦K♣K♠Q♣Q♠J♦J♣Jのどれか(たぶん2~3枚)があり。それで4-5HCPがあるはず。この組み合わせを考えます。まず♦Kがないと13トリックにはどうしようもないでしょう。だから♦Kがあるとすると、24HCPの場合は残りはQ1枚か、J2枚ですし、23HCPの場合だと残りはJ1枚です。自分にとってもっとも都合の良い絵札、つまり13トリック取れる組み合わせがあるだろうかと考えてみます。♦Kと♦Jがあつて4枚スートだったとしてもS2H5D4C1の12しかありません。ダイヤモンドが5枚スートであれば13の可能性が有ります。またダイヤモンド4枚でもスペードがダブルトンならばスペード1ラフできて13トリックになります。このような可能性があるだろうか？と考えます。上から2-4-4-3のときと3-4-5-2のときのみ7が出来ますが、それ以外はだめです。このようなディストリビューションのときに3Dに対して3Sというだろうか？たぶん4Dの方が選択されたでしょうから2-4-4-3や3-4-5-2の可能性は低いと推測します。だから♥Qありの♠Kありという6Sと言ってしまうと7Hになってしまいますから、これは避けた方がよいという結論に達します。したがって♥Qなしという6Hと答えてよいのではと考えます。キーカードアスクへの答えでも、ただ機械的にありなしで答えるのではなく、こちらで判ることを加味して調節して答えることが必要です。

(教科書には5SがQアスクになった時の答え方については言及がありませんが)

A] ここで5NTという答え方はどうでしょうか？

Q] これはサイドにKは無いが、トランプQありで他に役に立つQはあるという意味でなっています(上記教科書)確かにDQは役に立つカードですがサイドのKがないということになりますので正確にハンドを表すことにはなりません、この答えも悪くないと思います。上記教科書にはトランプがハートで5SがQアスクだったときのSKをどう答えるかについては書かれていません。

全部のハンドはこのようになっていました。確かに6Hまでしかメーク出来ません。もし7Hになってしまったらトップトリックで12ありますからCKのオープニングリードのあとスペードとクラブでスクイーズを試みます。SQとSJの両方がEにあれば、簡単にシンプルスクイーズに掛かりますが、EとWに分かれて持たれていますのでだめです。

しかし同じ点数でもダイヤモンドが5枚あれば7Hができそうですが、ほぼ同じビッド経過をたどってくると思います(5枚のダイヤモンドをもつとき、つまり上から2-4-5-2のときは3Dに、3Sでなく4Dとビッドしていたとも考えられますから、そういう持ち方の可能性は低そうです)

